

開催日

平成26年6月17日 火曜日
開会 18時30分
閉会 20時45分

会議場

富士市立高等学校 2階 会議室

出席委員

上柳 正仁 野村 浩美 塩田 真吾 柴田 怜奈
杉山 荘一 中川 加代子 吉村 孝夫 齋藤 照安
小野 政幸 金親 徳行 植野 秀樹

新委員 野村浩美様（平成26年度PTA会長）あいさつ

- ・PTA会長になったばかりで、学校について把握していないことも多いので、皆さんのお話を伺いながら勉強させてもらおう。
- ・1年間よろしくお願いしたい。

渡邊委員より

- ・本日は急用ができ、出席できずに申し訳ない。
- ・勤務校の学年主任が文化祭のステージ発表を見に行った時の感想を聞いたので本日お話をさせてもらうつもりだった。
- ・学年主任の感想として、「全体が暖かい雰囲気の中で保護者を含む来場者全員が気持ちよく帰宅できた。生徒の礼儀作法も良く、感心した。」ということだった。
- ・市立高校の近くに自宅があるが、家族の者が「市立高校の生徒はよくあいさつをしてくれ、時には話をすることもある。」と話をしてくれた。
- ・町内の組合の人でも市立高校に対して温かい気持ちで見守ってくれている方が多い。
- ・前任校の生徒はこの3月に1期生として卒業したが、きちんとした進路を決定し卒業してくれた。

畑会長あいさつ

- ・前回（第3回）はインフルエンザのため欠席し、申し訳なかった。
- ・富士市立高校になり1期生が卒業し、進路状況も良い結果が出たと伺いうれしく思う。
- ・1期生が出した成果を確実なものとしていくために、本協議会も学校の発展に貢献できればと考えている。

- ・委員の皆さんのご協力をお願いしたい。

校長あいさつ

- ・本日は大変お忙しい中、出席いただき感謝している。
- ・本日夜方、弓道部の全国大会出場が決まった生徒が教育長表敬訪問を行った。選手にとっては一生の思い出になったはず。
- ・部活動の様子については後ほど教頭から報告させてもらう。
- ・1期生の進路状況については、吉原商業の時と比べてだいぶ変わった。
- ・4年制大学進学率は12%から45%まで上がっている。
- ・進路について、運営協議会でもご指導いただきたい。
- ・ビジネス探究科の方向性を考えている。
- ・中学校のビジネス探究科への認識の違いを修正したい。
- ・本年度は各学科のコンセプトを鮮明にしたい。
- ・進学指導体制や中学校との共通理解などしなくてはならないことが多いが、1歩1歩歩んで行きたいと考えているので、委員の皆さまのお力添えをお願いしたい。

平成25年度卒業生の進路及び大学進学の仕事について

- ・25年度の進路実績を掲載した「進路の手引き」が先日完成し、在校生に配布し、説明した。
- ・25年度卒業生は200名。4年制大学に92名、短期大学に18名、専門学校に56名、就職が公務員を含めて28名、進学準備などその他が6名だった。
- ・大学、短大、専門学校共にAO入試、推薦入試、一般入試が行われている。
- ・国公立大学の一般入試は、センター試験後、2次試験は前期試験、中期試験、後期試験が実施される。
- ・私立大学の一般入試は、文系学部で国、英、社、理系学部で英、数、理で行われる。
- ・私立大学の推薦入試は、大きく分けて一定の条件を満たし校長の推薦があれば出願できる公募制推薦入試と大学側から各高校に推薦依頼がある指定校推薦入試の2種類がある。
- ・国公立大学の推薦入試は公募制推薦のみ、センター試験を課すものと課さないものがある。
- ・AO入試や推薦入試は、小論文試験や面接試験、グループディスカッションなどを課す大学が多い。中には学力試験を課す大学もある。
- ・全国の数字では、2013年に一般入試で入学した者が56%、推薦入試で入学した者が34.9%、AO入試で入学した者が8.6%と出ている。
- ・市立高校は一般入試が14.1%、推薦入試が44.6%、AO入試が41.3%という数字が出ている。

<ul style="list-style-type: none"> ・本校の課題は、一般入試でも戦える実力を付けさせること。 ・AO入試などでは探究学習で身につけたことが生かされるので、探究学習にも力を入れていく。 	
<p>(質問)</p> <p>(回答)</p> <p>(質問)</p> <p>(回答)</p>	<p>○説明に対する質疑応答等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績の数字は分かったが、生徒の希望として国公立大学の希望者はどのくらいいたのか。 <p>→最終的に国公立大学へ進学希望していたのは、20～30名だったがそれよりも前の時点においては、もう少し多かった。</p> <p>→傾向として国公立大学を希望している生徒が多いのか。</p> <p>→国公立大学志向というよりも地元志向が強いという印象がある。親元から通学したい、1人暮らしはしたくないという希望の生徒が多いようだ。</p>
<p>平成26年度 これまでの学校の様子報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に卒業した井上さん（筑波大）がNHK杯で3位になり世界選手権日本代表になった。 ・入学生については1期生から譲り受けた制服を着用する者に対しても洋装店で仕立て直してもらい、学校側で確認をして許可を出すことにしたため、ひどく崩れることなく入学式を迎えることができた。 ・静岡新聞の投稿欄に多くの生徒の作文が掲載されている。新聞には居住市町と年齢が掲載されるので、学校名が出ないので残念である。 ・5月21日には地域交流課が中心となって「人工芝で遊ぼう」という催しを開催した。地域の保育園児や小さな子どもさんを持つお母さんに学校を開放し、市立高校の保育系の進路を希望している生徒と交流をした。 ・地元企業との商品開発ということで、富士ひのき加工協同組合にマーケティング実習で訪問させてもらった。 ・弓道部は女子個人で全国大会出場を決めた。 ・陸上部に関しては、週末に行われる東海大会で入賞すると全国大会出場が決まる。 ・水泳部はこれから県大会、東海大会が行われる。昨年全国大会に出場した選手もいるので、期待している。 ・文化部では地域活性部が育てている花壇などが認められ表彰を受けた。 ・チアリーダー部が2週間後に東海大会に出場する。チアリーダー部は本年度の全国高等学校文化祭に出演も決まっている。 ・静鉄ストア主催のお好み焼き選手権にエントリーした部活もある。 	
<p>(感想)</p>	<p>○質疑・感想等</p> <p>→同窓会役員会でも新聞報道で後輩たちの活躍が出ると話が盛り上がる。今後も部活動等の熱心な指導を期待している。</p>

- 新聞に掲載されるのはうれしいこと。最近は礼儀作法のきちんと出来る生徒が多くて安心できる。
- 今後も地域に根ざした教育に力を入れて欲しい。
- 最近の市立高校生は、よくあいさつをしてくれ、昔とは違うなという印象がある。
- 自分が在籍していた頃から「商業生は愛想が良くて、誰とでも仲良くなれて、声を掛けられても人見知りをしないのが良いところだ。」と言われていたが、現在の生徒は感じ良く、品良くあいさつができる。学校の評判を上げてくれてうれしく思う。

最近の高等学校を中心とした教育の動きについて

- ・今後、本校がどのようなことをしていけば良いのかを説明したい。そのために小中学校や大学など高校と接続している部分も含めて今後の動きを説明する。
- ・社会の変化が早い中、「知識基盤社会」、「グローバル化」、「少子高齢化」がこれからの教育を考えていく上でも重要な項目になる。
- ・デューク大学デビッド教授は、現在の小学生が社会人になるとときには65%の仕事が現在存在する仕事ではないと論じている。
- ・このような社会にあって学校では何かになるための教育ではなく、何になるのも必要となる共通の力を身に付けさせるべきである。
- ・以前は海外で活躍する日本人は少数だったが、今後は誰もが外国人と仕事をしたり、正社員の席をめぐる外国人と競ったりすることになる。
- ・少子高齢化により20年後には18歳人口が現在より半減する。現在のままの定員であれば、経営が成り立たなくなる大学も多くなる。
- ・少子高齢化も日本だけの問題ではなく、世界の問題でもある。
- ・OECDではキーコンピテンシー(人生の成功や社会の発展に有益で、色々な価値観や色々な情報の中で何を求められているのかを見極め、対応していく力)の養成に注目している。
- ・今後の学力というものの概念は変わっていく、点数をどれだけ取れるのが学力ではなく、どのくらい主体的に学習に取り組む態度があるのかを学力という時代になる。
- ・小学校では外国語活動が採り入れられ、小中学校では道徳教育に力を入れる動きになっている。
- ・これから高校では、どの仕事に就いてもどのような場面に置かれても通用する力を付けてあげることが大事になる。
- ・また、高校では講義中心の授業からディスカッションをするような授業に転換することが提言されている。
- ・教室の中にいるだけではなく、外へ出て体験的な学習をする必要がある。

- ・高校は一体何をする場所なのかということを考え直さなければならない時期なのではないかという議論も出ている。
- ・大学には国から多くの指示が出ており、変わらなければいけない状況にある。
- ・社会は即戦力になる人材を大学に求めている。それに応えるためには高校同様講義中心ではいけない。
- ・教育再生実行会議では、「鍛え上げて社会へ送り出す機能」を大学は持たなければいけないと提言されている。
- ・大学入試制度も変更する必要があるが出ている。
- ・得点に特化した現在のような入試ではなく、考える力があるかどうかをみる試験になるだろう。
- ・大学入試センター試験も見直され、演習問題をたくさんやっても解答ができないような問題になる。
- ・最終的に先生も変わる必要が出てくる。専門職としての姿勢が問われる。
- ・探究的、課題解決型のプロジェクトを進めていけるような学習の流れを作ることのできる先生が必要になる。
- ・ただ、現時点では大学入試制度も大きな変更はされていないので、学校は非常に難しい段階にある。

グループワーク

(Aグループ)

- ・ビジネス探究科について、中学生及び保護者、中学校の先生方にもっと理解をしてもらうために動かなくてはならない。
- ・ビジネス探究科に入学してきた生徒は、資格取得に向けて一生懸命努力している。資格取得を通して人間的な成長に繋げていることをアピールしていかななくてはならない。
- ・地元企業から見れば高卒の社員の方が大卒の社員よりも即戦力となりレベルが高いと思う。このような声があるということも中学校にも届けるべきだ。
- ・まだ1期生が卒業したばかりなので、何年か経過して、ビジネス探究科の生徒がどのようなになっているのかを外に向けて紹介できると良い。
- ・幼児教育の観点から、現在の若者が親元を離れないということに関して、高校段階の指導の問題ではなく、幼児段階からの問題だと思う。

(Bグループ)

- ・富士市立高校として初めての卒業生を送り出して、先生方はどのような評価をしているのか、という質問が出た。
- ・上記の回答として、1期生の生徒も教員も情熱を持って進路実現をすることができた。

- ・本校の目指す方向性を考えたとき、国公立大学の合格者数だけを指標にしても良いのか、という意見も出た。
- ・それぞれの子どもに合った画一的ではない指導が必要ではないか。
- ・海外探究研修については、生徒にとって非常に良い体験ができ、大人になったときの財産となるような経験がたくさんできていると思う。
- ・現状は良い方向に向かっている。世の中を上手に渡っていく人材の養成だけでなく、突出するような荒々しさを持った人材や社会を変えることのできる気概を持った人材も育てて欲しい。
- ・開校当初の先生方の熱意がしっかりと引き継がれて行って欲しい。
(Cグループ)
- ・1期生は探究学習を通してきちんと力を付けて卒業したと思う。
- ・教員側のアプローチの仕方を今後しっかり考えていくべき。
- ・市立高校の理念を一部の教員だけのみではなく、教員全員が理解していかなくてはならない。
- ・教育活動の中では教員がすぐに手を出してあげるのではなく、我慢することも大切。
- ・本校は市立の高校ではあるが、良い環境、良い指導を求めて他市や他県からも入学希望者が出るようになることも大事だと思う。そのためには情報をまめに発信するといったPR活動が必要。
- ・今後は基礎学力を押さえて、探究学習で問題解決能力や自立心を育てていくことに取り組んで欲しい。

次回日程について

閉会